評価の具体例

※ここに示した例は，啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 評価規準（B規準） | Bの状況に達していない場合の手立て例 |  | Aと見取る子どもの姿の具体例 |
| とくいなことを  見つけよう | 【関・意・態】  自分ができるようになったことや，自慢したいことを発表したり，友達ができるようになったことをほめたりすることにより，自分や友達の成長への関心をもつ。 | ・１年生の時の絵日記や作文，写真などを一緒に見ながら，現在の自分はどんなことができるようになったのか，友達に自慢したいことはどんなことなのか，自覚できるような言葉かけをする。 |  | ・「ぼく，かけ算九九できるようになったんだ，おじいちゃんにほめられちゃった。」「○○くんだってかけ算九九すごく上手だったよ。」など，友達が自分のよさに気付くよう話しかけている。 |
| 【思・表】  学校，家庭，地域での生活のなかで，できるようになったことを自信をもって発表したり，友達のよさを見つけたり，友達に伝えたりしている。 | ・できるようになったことを教師と一緒に喜び，安心して友達の前で発表できるように，発表の練習を支援する。友達からどんなことをほめてもらったらうれしいか，考えながらメッセージを書かせる。 |  | ・「5月ごろは，一輪車に乗れませんでした。でも，○○くんが教えてくれたり，一緒に練習してくれたから，こんなに乗れるようになりました。」など，できなかった時と比較したり，できるようになるためには，友達の励ましがあったことに気付いている内容の発表である。 |
| 【気付き】  現在の自分や友達には，得意なことや自慢したいことがたくさんあることに気付いている。 | ・保護者と連携し，できるようになったこと，友達に自慢できることについて一緒に考えておいてもらう。  ・幼稚園・保育所のことを思い起こさせ，以前できなかったができるようになったこと，今友達に自慢したいこと，などについて教師と一緒に考える。 |  | ・自信をもって大きな声で，わかりやすく発表することができたり，「ぼくも，○○くんはいつも誰にでも明るい声で元気よく挨拶できるようになったと思うよ。」など，友達の発表について共感しながら，友達に声をかけることができている。 |
| 自分たんけんを しよう | 【関・意・態】  生まれてから現在までの間で自分ができるようになったことや，自分の体が大きくなったことに関心をもち，自分の成長を調べようとしている。 | ・自分で調べたくなるようなきっかけを作るために，小さかったころを想起するような資料(入学式の写真や保育所のころの写真など)を見せる。 |  | ・養護教諭の先生に相談し，自分の成長の記録(身長・体重などの記録)を見ながら１年生の時の身長と今の身長を比べながら考えている。「わたし，1年生に入学した時と比べて，私の手の中指ぐらい伸びたんだって。保健の先生が教えてくれたよ。」 |
| 【思・表】  小さかったころの写真や作品などをもとにしたり，成長を支えてくれた人にインタビューをしたりして，過去の自分と現在の自分とを比較して考え，一人でできるようになったことが分かる。 | ・幼稚園・保育所との連携をはかり，保育所の先生にインタビューができるようにしておく。また，祖父母などと電話で話す方法もあることを伝え，自分なりの方法を考えながら，自分ができるようになったことが自覚できるようにする。 |  | ・「ぼくね，一輪車の乗り方を○○くんに教えてもらったからできるようになったんだよ。」「わたし，うさぎのミミちゃんが可愛くて，毎日世話ができるようになったよ。1年生の時は飼育委員のお姉さんと一緒じゃないと，うさぎ小屋に入れなかったけど，2年生になってから，友達と世話ができるようになったよ。」と，自分とかかわってきた人も含めて，できるようになったことを考えている。 |
| 【気付き】  小さいころの写真や，作品，使っていた物などや身近な人の話から，自分の成長にかかわった人の思いに気付いている。 | ・単元に入る前に各家庭に活動内容を知らせる時，支援が必要な子どもには配慮しながら，写真や具体物などが無い場合は，幼稚園や保育所の様子を話してくれるだけでもよいことを伝え，子どもが安心して活動できるようにする。 |  | ・「小さいころ，わたしが風邪をひいたとき，おばあちゃんは朝から夕方までずっとそばにいて看病してくれたことを知りました。おばあちゃんに，『ありがとう。』と言いたいです。」など，小さいころの写真や，身近な人の話から，自分の成長にかかわった人の思いに気付くだけではなく，かかわってくれた人に感謝の気持ちをもつことができている。 |
| 自分の ものがたりを  作ろう | 【関・意・態】  自分の成長を「自分のものがたり」としてまとめることに関心をもち，表し方を工夫したり，足りないところを調べ直したりしようとしている。 | ・参考作品を見せながら，自分が一番心に残っている成長カードを，成長してきた順に並べることからスタートすると，楽しく作ることができることを伝える。 |  | ・「かすみちゃんは，仲間はずれにされそうになった時，『いっしょに遊ぼう。』と声をかけてくれたんだよ。わたし絶対忘れないよ。」と友達のよさについて本人に伝えたり，進んで工夫しながら「自分のものがたり」作りに取り組んでいる。 |
| 【思・表】  自分自身の成長を振り返り，自分の成長について考え，表現方法を工夫しながら「自分のものがたり」を作っている。 | ・保護者の協力を得，家族と懐かしい話をしながら，自分はどのような人とかかわり，どのように育ってきたか考えながらできるように，また，「自分のものがたり」は世界に１つしかない宝物であることを伝える。 |  | ・「わたしのものがたり」を「巻物にしようかな。カルタにしようかな。作品集として仕上げても楽しいな。」など，自分なりの方法を工夫している。また，作りながら，できるようになったことに喜びを感じ，1年前の自分に手紙を書いて知らせたりしている。 |
| 【気付き】  自分でできるようになったことが多くなったことや，役割が増えたことなどがわかる。また，成長を支えてくれた，周りの人に喜びを感じさせることができていたことにも気付いている。 | ・「自分のことが自分でできるようになる」ということがとても大切であり，家族の喜びでもあることに気付かせる。また，自分は今何ができるのか，考えることも大切であることを知らせる。 |  | ・「『自分のものがたり』を作ってみると，いろいろな人に助けられながら大きくなってきたことがわかりました。」「ぼくがいろいろなことが自分でできるようになると，おじいちゃんやおばあちゃんがすごく喜んでくれることに気が付きました。」など，自分の頑張りが家族や友達を喜ばせていることに気付いている。 |

評価の具体例

※ここに示した例は，啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ありがとうを つたえよう | 【関・意・態】  自分の成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち，自分の気持ちを素直に表した手紙やカードを作成し，感謝の気持ちを伝えようとしている。 | ・自分から進んで手紙などを書くことができない子には，家族がどのような思いで育ててきたのか，わかるように，父・母・または祖父母から子への手紙を書いてもらえるように事前に依頼しておく。 |  | ・自分の成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち，「おじいちゃんは遠くに住んでいてもいつもぼくのことを心配してくれているんだね。今度からもっとたくさん電話するね。」など，一緒に住んでいない祖父母に対しても，感謝の気持ちを伝えようとしている。 |
| 【思・表】  自分の成長を支えてくれた人々とのかかわりについて考え，自分なりの方法を工夫しながら，感謝の気持ちを伝えている。 | ・感謝する気持ちを伝えることが大切であると知らせ，無理に手紙ではなく，自分なりの方法を考えさせたり「ありがとうカード」に短く書いたりすることでも気持ちを伝えられることを教える。 |  | ・家族や地域の人，友達など，自分の成長を支えてくれた人が誰なのかわかり，数人に感謝の気持ちを伝えようと，進んで自分なりの方法を考え，心を込めて手紙などを作成し，伝えることができる。 |
| 【気付き】  自分が大きくなったり，自分でできるようになったりするなどの成長には，多くの人の支えがあり，大切に育てられたことに気付き，感謝の気持ちを表すことの心地よさを感じている。 | ・自分が今まで育ってきたのは，多くの人の支えがあったことに気付くことができるように，写真や思い出話をしながら，その時，その時にかかわってきた人の気持ちを考えさせる。 |  | ・「ぼくがここまで元気で学校に通うことができたのは，毎朝交通指導員のおじさんが見守ってくれたからだね。」と家族以外の人にも目を向け，感謝の手紙を書くことができた。また，教科書(p.96～97)を見ながら，感謝の気持ち「ありがとう」を伝えることの心地よさを感じている。 |
| あしたに むかって  すすもう | 【関・意・態】  友達のよさ，優しさを感じながら，これからの成長への願いをもって意欲的に生活しようとしている。　（発言・つぶやき） | ・友達と遊んで楽しかったことや友達に親切にされたことなどを思い起こさせ，今自分は幸せなんだと感じることができるような言葉かけをする。 |  | ・「1年生の時にね，ぼくが昇降口で1人になってしまったことがあったの。寂しくて泣きそうになったとき，○○くんが，優しく教室を教えてくれたよね。ぼく覚えているよ。」と，友達に感謝の気持ちを伝えたり「3年生になっても仲よくしていこうね。これからも助け合っていこうね。」など楽しく意欲的に生活しようという気持ちを，言葉で相手に伝えている。 |
| 【思・表】  友達と将来の自分について，話すことにより，これからの成長について考えている。 | ・大きくなったらどんなことをやってみたいのか，自由な温かい雰囲気の中で，友達と話すことができるように，環境作りについて配慮する。 |  | ・「わたし大人になったら，パン屋さんになるんだ，幼稚園や保育所の子が喜ぶような楽しいキャラクターのパンを作るよ。」と友達に話したり，共感しながら聞いたりしている。 |
| 【気付き】  自分のよさや可能性に気付き，友達も自分もこれからの生活や夢に希望をもっていることに気付いている。 | ・「友達のいいところを見つけよう」ゲームなどを取り入れたり，人の役に立つということはどんなことなのか考えさせながら，自分に自信がもてるようにする。 |  | ・「ぼくは，何もいいところがないのかな。と思っていたら，友達がぼくのいいところたくさん教えてくれたから，なんだかとってもうれしくなったよ。」「ぼくも野球選手になれるような気がしてきた。」など友達との対話を通して，自分のよさを自覚している。 |
| 大人に なったら | 【関・意・態】  これからの自分の成長や希望に関心をもち，未来の自分の姿を考えたり自分の願いを表現したりして，自信と意欲をもつ。 | ・「大人になったらお父さんのように，車の運転ができるようになりたいな。」「お母さんのように外国の人と英語で話ができるようになりたいな。」「大好きなおじいちゃんのようにトラクターの運転ができるようになりたいな。」など，友達の書いた文を見せることにより，自分の願いをもつことできるようにする。 |  | ・大人になったらどんなことをしてみたいのか，自分の姿を考え，作文や発表カードに進んで書いている。また，友達の願いもよく聞き，「○○さんは看護師さんになりたいの？すごいな。○○さん優しいからきっとなれるよ。」などと話している。 |
| 【思・表】  「大人に なったら」のページや，カードに，大人になったらどのような人になりたいかかくことにより，将来への夢について考えている。 | ・「おじいちゃんやおばあちゃんの役に立ちたいな。」「相手を喜ばせることができる人になりたいな。」などでもよいことを知らせ，成長していくことへの喜びを感じられるようにする。また，具体的に書けない子には，無理に書かなくてもよいことを伝え，「３年生になったら考えてもいいね。」と安心するような言葉かけをする。 |  | ・「ぼく大人になったらサッカー選手になるんだ，だから家でも毎日マラソンを頑張るんだ。」など，大人になったらどのような人になりたいか，具体的に考えている。さらに，それに向かって，今自分ができることを考えている。  ・「おじいちゃんは腰が痛くても頑張って野菜を作っているんだ。だから，ぼくが大きくなったら，大好きなおじいちゃんを病院に連れていってあげるんだ。」など家族のためにできることを考えている。 |
| 【気付き】  大きくなってからなりたい自分に向かって生活するためには，自分に自信をもって，明るく元気に過ごすことが大切であることに気付いている。 | ・教師が「○○さんは，誰にでも優しくできるからすごいね。」などと，具体的に，よいところをほめ，自分に自信をもつことができるようにする。 |  | ・大きくなってからなりたい自分に向かって生活するためには，自分に自信をもって，明るく元気に過ごすことが大切であることに気付き，友達にも「ぼくね，もっと優しい人になりたいんだ。だから，家でも明るい笑顔でおじいちゃんやおばあちゃんに挨拶しようと思うんだ。」と話している。 |